

【ご案内】兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部

第10回 ファイアサイド・ディスカッション

依存症としてみた「ながらスマホ」

日時 2024年6月15日(土) 午後3時～5時
会場 西宮市民会館中会議室301(オンライン併用)
講師 医療法人北仁会旭山病院精神科医長 **中山 秀紀** 先生
パネリスト 教育関係者、市議会議員など(予定)
司会 西宮市 伊賀内科・循環器科 **伊賀 幹二** 先生

【なかやま・ひでき先生】医学博士、医療法人北仁会旭山病院精神科医長
専門領域は、臨床精神医学、アルコール依存症。2000年、岩手医科大学医学部卒業。04年、同大学院卒業。10年より独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター勤務。11年よりネット依存治療研究部門に携わる。同センター精神科医長を経て、20年4月より現職。

スマートフォン(以下、スマホ)の普及で生活の利便性は格段に向上したが、スマホに生活を支配されているような人たちも多く見受けられる。歩行中も前方でなくスマホ画面をみている人も多く、それに対して多くの人が違和感を抱かなくなっている。しかし、自転車の運転中や歩行中の「ながらスマホ」に起因する高齢者・障害者との接触、転倒事故は少なくない。私たちは1年前から高齢者・障害者の安全という観点から、ポスターの作成やラジオ番組での広報など「ながらスマホ」の危険を伝える運動を行ってきた。また、「ながらスマホ」をしている当事者に「何をしているか」のアンケートを行った。すると、30歳以上では目的地検索が最多だったが、30歳未満ではラインが最多であった。一方ラインにすぐに返信したり既読をつけなければならないと思っている人は30歳未満では7.7%で、30歳以上の30%と比べても少なかった。若年層はすぐに返信しなければならないという強迫観念からでなく、知らず知らずのうちにスマホ依存になっていることが分かった。

今回、このアンケートを通して見えてきた「依存症」という観点から、旭山病院の中山秀紀先生にメインの講演をお願いし、教育委員会の関係者(予定)、西宮市会議員の意見も発表していただいたあとに、参加者と議論を行いたいと考えている。

かつてはどこでも喫煙されていたが、この30年でその「常識」は大きく変わった。同じように「スマホは立ち止まって使う」ということが常識になり、「ながらスマホ」に多くの人が違和感を持つようになることを期待する。

多くの人が参加され、実り多い議論になることを期待する。【伊賀 記】

※お問い合わせは、協会事務局 TEL:078-393-1840 伊地知、山田まで

【ZOOM 視聴の申し込み】 下記 URL 又は QR コードからお申し込みください

<https://qr.paps.jp/gudS>



【来場参加の申し込み】 FAX(078-393-1820)でお申し込みください

お名前 () 所属 ()
TEL () FAX ()